



VOL.4 特集企画

半田商工会議所は今年で創立130周年を迎えます。
そこで今年度のカイギシヨゲッポウでは、「創立130周年特集」を毎月掲載します！
前半では、当所が創立した1893年～現在に至るまでの当所の歴史を、世界や半田市の動きと照らし合わせながら紹介します。皆様も、一緒に歴史を振り返ってみませんか？

第4回目の今回は、1994年(平成6年)～2003年(平成15年)までの10年間を振り返っていきます。



第11代会頭 小栗 圓一郎
1994年～1998年



第12代会頭 中埜 修
1998年～2004年

半田商工会議所の歩み

1994年～2003年

1994

・新美南吉記念館オープン
・知多半島湯水

1995

・阪神・淡路大震災発生
・交流協会」に改称

1996

・半田市行政改革大綱決定
・半田国際交流市民委員会が「半田国際

1997

・知多地域経済会議」発足
・「潮十会」発足

1998

・半田市行政改革大綱決定
・半田国際交流市民委員会が「半田国際

1999

・半田市行政改革大綱決定
・半田国際交流市民委員会が「半田国際

2000

・祝2000年半田街おこし山車まつり
・介護保険制度始まる

2001

・新・衣浦海底トンネル貫通式
・米ニューヨークで同時多発テロ事件
・空き店舗対策事業がスタート
・東海豪雨により各地に被害
・開催

2002

・「愛知県港湾経済連合会」設立
・「あおぞら共済」デビュー
・共済制度の新ネーミング
・Weekly E-mail Information」発刊
・当所メールマガジン「HANDA-CCI」
・議員定数を100名に増員

2003

・「観光委員会」発足
・そろばんボランティア授業開始
・新・衣浦海底トンネル供用開始
・郵政事業庁が日本郵政公社に
・会員講演会を開催
・竹中平蔵氏(国務大臣)を招聘し
・当所定款に青年部を位置付け
・当所を表敬訪問
・中国江蘇省徐州市政府代表团が
・第5回はんだ山車まつり開催
・日韓共催のサッカーW杯
・「愛知県港湾経済連合会」設立
・「あおぞら共済」デビュー
・共済制度の新ネーミング
・Weekly E-mail Information」発刊
・当所メールマガジン「HANDA-CCI」
・議員定数を100名に増員

*太字は当所に関する事柄

1994年(平成6年) 知多地域経済会議 発足 知多半島全体で発展を目指す

知多半島4商工会議所8商工会(現在)のトップで構成されたこの組織は、地域経済団体の連携を軸に、産業の振興と発展を目指したものだ。
知多半島5市5町を一つの地域として捉え、共通課題について話し合う基盤が整備された。



1997年(平成9年) 第1回「はんだの産業まつり」開催 約30,000人が来場

このイベントは、当所・半田市・知多農業協同組合(当時)で構成された実行委員会主催のもと、半田市制60周年を記念し、前年まで別々に開催されていた「はんだの産業と物産展」と「半田市農業まつり」を合わせて新しく開催したもの。
現在でも続いている半田商工会議所青年部による「ごん鍋」のふるまいは、当時から好評だった。



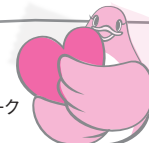
関係者によるテーブルカット



大好評の「ごん鍋」

2001年(平成13年) 共済制度の新ネーミング「あおぞら共済」デビュー 魅力ある共済制度運営へ

あおぞら共済マーク



当所の共済制度(生命・特定退職金・経営者年金)の適正な運営を図るための審議会を前年に設置。
信頼と魅力ある共済制度運営と当所財政基盤の確立を目指した。
同審議会により見直された生命共済制度は、公募の中から「あおぞら共済」として2001年(平成13年)1月にデビューした。

2003年(平成15年) 新・衣浦海底トンネルの供用開始 地域発展への深く大きな近道

衣浦海底トンネルは、我が国初めての沈埋式海底道路トンネルとして昭和48年に開通し、西三河と知多地域を結ぶ幹線道路として、地域の発展に大きく貢献してきた。
しかし、港湾の取扱貨物量の増大や周辺道路の整備進展に伴い、衣浦海底トンネルの交通量は著しく増加した。この様な背景から、交通円滑化のため既存の2車線から4車線化することが決定し、工事着手から約5年後の2001年(平成13年)に貫通、2003年(平成15年)3月より供用が開始された。

